

10002 キリスト教概論Ⅱ f Introduction to Christianity II		3年次～ 後期 2単位	
担当者	瀧野 修	履修可能学科	E必 Pe必 Pc必 C必 W F N
		関連資格	保育 (P c)
サブタイトル	キリスト教の発展と教会堂建築の様式変化		
授業内容 ねらい	ヨーロッパの文化や歴史を考察するとき、人々の暮らしや社会の隅々にまでキリスト教の影響が深く及んでいることに気付かされます。本講義においては、キリスト教の発展の歴史を考察しつつ、そのキリスト教をバックグラウンドとして持つ西欧の人々にとって、造形芸術としての教会堂が意味するものを美術史的視点から考察します。		
	1) 主として西ヨーロッパ地域に限定し、主要な教会堂建築の様式変化を概観します。その順序は、初期ビザンチン様式に始まり、ロマネスク様式からゴシック様式までを対象とします。 2) 造形物としての教会堂における《時間と空間》の意味を探ります。その際、ヨーロッパ精神史において《聖と俗》の二元論がどのように扱われてきたかに触れます。 3) スライドやビデオを見ながら、ヨーロッパの諸教会を訪れてみます。時には、堂内に流れたであろう教会音楽を鑑賞します。		
授業計画	第1回 西洋建築史（代表的な建築様式） 第2回 キリスト教の成立と発展 第3回 聖堂とは 第4回 バシリカ式聖堂 第5回 集中堂式聖堂 第6回 初期キリスト教聖堂の魅力 第7回 ローマ帝国の分裂と東西キリスト教 第8回 ロマネスク様式と修道院	第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	ロマネスク様式の発展 中世キリスト教建築の二元性 聖と俗 ゴシック様式の成立 ゴシック様式のさまざまな形 ゴシック建築の志向するもの ケルン大聖堂
教科書 参考書	教科書は使用しませんが、毎回、教室でプリントを配付します。参考図書は、折に触れて授業中に紹介します。		
評価方法	毎回提出してもらおうミニレポートと、学期末のレポートの成績を総合して評価します。		
事前準備学習 履修条件等			